

## 研究テーマ

## 自分の考えや思いを伝えあう言語活動の工夫

## 研究テーマに対する具体的な取組の内容

## ○Small Talk を中心とした「やり取り」の活動

・文法的な正確さよりも話そうとする意欲を重視した活動を取り入れることで、生徒が主体的に取り組む授業づくりを目指す。

## ○Presentation や Show &amp; Tell を中心とした「発表」の活動

・英語で表現する力(書く・話す)の育成を授業や家庭学習・定期テストなどで段階的に取り入れることで、知識及び技能の習得を目指す。  
・パフォーマンステストやRetelling などの活動により、思考力・判断力・表現力等の育成を目指す。

## ○ICTの効果的な活用

・ICTを活用して自分の考えや思いを書いて表現したり、ペアやグループでの「発表」につなげたりする機会を設定する。

## ○CAN-DOリストやルーブリックなどの効果的な活用

・CAN-DOリストやルーブリックなどを事前に生徒に提示し、適切なフィードバックや振り返りを通して、生徒による主体的な言語活動を促す。

## ○読解力の向上

・目的・場面・状況に応じて内容を読み取り、要点を理解する活動を通して、読解力の向上を目指す。

## 成果①

## 【生徒質問紙より】

- ・授業に意欲的に取り組んでいる  
…96%(R3)、95%(R4前期)
- ・考えを深めることができている  
…92%(R3、R4前期)

⇒主体的・対話的で深い学びの充実に向けた取組の成果

## 【英検の結果より】

- ・R3年度末 3級以上取得(3年)…約30%
  - ・R4年度 英検IBA「3級程度以上」(2年)  
…約24%
- \*3年次英検3級以上取得40%を目標に

## 【授業改善の視点】

- ・他校種とのつながりを意識した授業づくり

## 成果②

## 【ICT機器の効果的な活用】

- ・JamboardやGoogle Slides、デジタル教科書の活用
- ・Chromebookを用いて生徒の会話や音読を録画し、評価材料にも活用
- ・Google Classroomを通じた他校種との連携

## 【Small TalkやPresentation活動】

- ・主体的に会話に参加する雰囲気
- ・既習事項の定着
- ・Small Talk→Presentation活動へ

## 今後の課題・方向性

## 【今後の課題・方向性】

- ・「正確さ」の向上  
⇒失敗を恐れずに英語を使おうとする生徒は増加したが、中間指導については今後更に改善が必要である。
- ・CAN-DOリスト、ルーブリックの共有・見直し  
⇒他校種とのつながりや、バックワード・デザインを意識した指導計画を作成する。
- ・読解力の向上  
⇒要点を理解するためのRetelling活動などの充実を図る。同時に、読解力向上を全教科で意識して指導にあたる。